

令和4年度 事業報告

愛知リトルベビーサークル希望の光

事業の概要

サークル活動1年目で初めて行う活動ばかりであったが、一つ一つの活動を大切にしながら、活動ができました。本年度は、当サークルが大切にしている「当事者への直接的な支援」と「低出生体重児とその家族について社会へ発信」の2つを軸として活動を行いました。

「当事者への直接的な支援」は毎月オンラインでの交流会を行い、相談や情報共有ができました。参加者の中には、サークルで知り合ったことをきっかけに、母親同士が親密になり、サークル活動以外の場でも交流を深めるなどのケースが何件もあり、サークルが母親同士のつながる場として提供できました。

「低出生体重児とその家族の環境を社会へ発信」については、学会へのブース参加、小さな命の写真展開催、大学研究への協力、こども家庭庁への訪問を行い、低出生体重児への理解と当サークルについての周知活動を行いました。

パシフィコ横浜で行われた学会では、日本NICU家族機構参加団体として、全国の家族会の存在を小児科医師、看護師へPRしました。県ごとに団体があることや、全国の家族会との繋がりもアピールするとともに、コロナ禍で頑張ってくださっている医療従事者の方へ感謝の気持ちを伝える機会となりました。

世界早産児デーイベントではイオンモールにて開催し、ラジオ・テレビ・新聞とメディアにも取り上げていただくことで、来場者は400人を超えました。当事者だけでなく、当事者を支える保健師、看護師、児童発達支援センター勤務者、保育専攻高校教諭なども来場し、熱心に見られたり、話を聞いてくださりました。低出生体重児について知らない方も、子供たちの力強さに感動してくだり、多くの方に関心を持っていただくことができました。

こども家庭庁準備室へは、他県サークルの代表と共に、低出生体重児の実情と支援の必要性を伝えてきました。認知度の低さを課題に挙げていただき、認知度が高まれば支援の必要性も出てくるという助言をいただき、来年度では世界早産児デーについて広く社会に周知していこうとの発言をいただきました。今後は全国のサークルと共に、国との連携も深めながら活動を進めていきたいです。

今年度は、多くの方に低出生体重児とサークルについて発信することができ、サークルの参加者も増え、サポートしてくださる方も増えました。今後も引き続き啓発活動を続けるとともに、当事者へのサポート強化を図る活動を進めていきたいです。

事業内容

1) 当事者交流会

実施日	開催方法	参加人数	支出金額
1月14日	オンラインによる交流会	5	0
2月18日	オンラインによる交流会	7	0
3月9日	オンラインによる交流会	3	0
4月12日	オンラインによる交流会	5	0
5月17日	オンラインによる交流会	5	0
6月21日	オンラインによる交流会	5	0
7月21日	オンラインによる交流会	6	0
8月19日	オンラインによる交流会	5	0
9月29日	オンラインによる交流会	7	0
10月	イベント準備のため不開催		
11月	イベント開催のため不開催		
12月9日	オンラインによる交流会	13	0
1月27日	オンラインによる交流会	10	0
2月27日	オンラインによる交流会	12	0
3月13日	オンラインによる交流会	8	0

2) 第58回日本周産期新生児医学会に参加

日本 NICU 家族会機構 (JOIN) 参加団体として、神奈川県パシフィコ横浜へ。JOIN ブースにて来場した医師や看護師にサークルの周知活動。

3) 世界早産児デーイベント「小さな命の写真展」を開催

木曾川イオンモールにて3日間、低出生体重児の成長がわかる写真、小さなオムツ、ウェイトドールなど展示し啓発活動を行う。

4) 米国ブラウン大学鈴木さんによる「日本における NICU 卒業生の母親を対象としたウェブベースのマインドフルネスプログラムの適応」研究への協力

5) 子ども家庭庁設立準備室への陳情

1月19日内閣参事官、参事官補佐、主査と面談。

日本 WHO 協会の中村安秀先生、国際母子手帳委員会の板東あけみ先生、福島県・栃木県・埼玉県・神奈川県・静岡県・岐阜県・長崎県のリトルベビーサークル代表と共に訪問。低出生体重児とその家族の育児環境の課題について。

6) 母乳バンクへ訪問

1月19日一般財団法人日本財団母乳バンク訪問。

ドナーミルクの必要性、現状、研究について説明を受ける。